

患者数の状況

令和2年度の患者数の動向については、入院患者数で1万994人となり、前年度対比80.2人（7.9%）の増加となりました。

また、外来患者数では、新型コロナウイルス感染症の発生により、病院受診控えや、手指消毒など感染症予防対策が徹底されたことによる、インフルエンザなどの感染症患者の減により、3万5302人となり、前年度対比5512人（13.5%）の減少となりました。

医師および医療スタッフの確保に向けて

病院経営にとって、常勤医師はもとより、看護師をはじめとする医療技術員の体制整備は、病院運営と経営の根幹をなすものです。

医師確保の問題は、町立厚岸病院のみならず全国的に改善が進まず、特に、へき地の自治体病院や診療所において共通した重要課題で、非常に厳しい状況が続いています。

医療や福祉はマンパワーとチームワークが大切です。町立厚岸病院が担う地域医療の確保や24時間の救急医療を維持するため、北海道などと

も連携し、常勤医師の招へいと医療技術員の確保に全力で努めていきます。

老健『ここみ』の運用状況

医療と高齢者福祉に対応した介護老人保健施設『ここみ』（23床）は、町立厚岸病院と特別養護老人ホームの中間的な役割を持つ施設で、在宅で自立した生活ができるよう、リハビリを中心に食事や入浴などのサービスを受けながら、カラオケやゲームなどレクリエーションを楽しんだり、入所者同士が交流しながら、自立した生活を支援する役割を担っています。

救急外来の適正な利用のお願い

町立厚岸病院では、24時間の救急医療体制を整備し、救急患者の受け入れを行っています。これは突発的な症状（激しい頭痛、腹痛、胸痛、外傷等）で、**緊急処置が必要な患者さんの治療**を行うものです。

しかし、『コンビニ受診』と呼ばれる緊急性の低い軽症患者の受診もまだまだ見受けられます。救急外来は24時間いつでも受診できる便利な夜間診療ではなく、緊急時に対応するためのものです。コンビニ受診が増えると、重症患者への対応に影響が出たり、医師の負担が増して疲弊にもつながります。できるだけ診療時間内に受診をお願いします。

マイナンバーカードが健康保険証として使えます

令和3年10月から、マイナンバーカードを利用した健康保険証の『オンライン資格確認』ができるようになりました。病院受付窓口でも手続きが可能ですので、お申し出ください。



■補助金と財源内訳の推移

（単位：千円）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
補助金	585,433	568,618	604,833
企業債元利・建設改良	193,218	152,302	162,494
救急医療	116,768	122,002	94,474
不採算地区病院対策	204,814	216,080	250,527
その他	70,633	78,234	97,338
うち法令基準に基づく国からの交付金額	226,302	219,230	217,094

※『法令基準に基づく国からの交付金額』は、国から示された数値を記載しています

■病院収支と累積欠損金の状況

（単位：千円）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
病院事業収益	1,239,851	1,201,259	1,203,699
入院収益	251,806	236,441	244,224
（入院患者数）	（10,061人）	（10,192人）	（10,994人）
外来収益	363,688	339,734	288,111
（外来患者数）	（45,399人）	（40,814人）	（35,302人）
他会計補助金	429,031	437,570	469,582
特別利益			6,664
その他	195,326	187,514	195,118
病院事業費用	1,196,217	1,183,256	1,211,304
給与費	700,427	735,332	741,899
材料費	117,553	111,956	110,928
経費	202,116	202,189	223,231
企業債利息他	36,921	31,930	27,321
特別損失			6,664
その他	139,200	101,849	101,261
当年度純利益	43,634	18,003	△7,605
その他未処分利益剰余金変動額			
減債積立金処分額			
累積欠損金	653,548	635,545	643,150
うち不良債務		1,346	